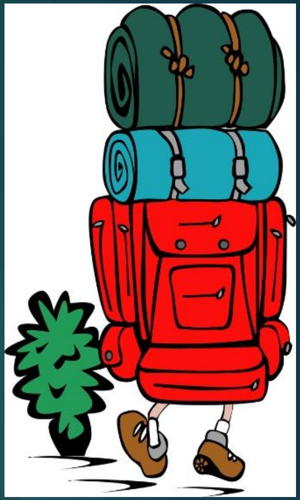
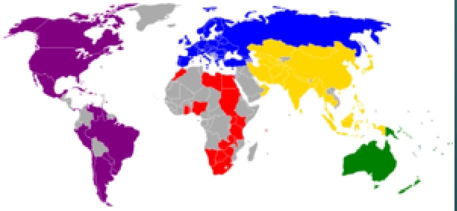
国際保健医療支援実習
in　タイ・ミャンマー





朝日・石川・石島・伊藤愛・伊藤春
岩間・植田・岡田・奥田・奥野
高橋・谷岡・藤田・八上

実習の目標

1.国際保健医療支援活動は何か、説明できる
2.訪問国の文化・生活習慣・宗教・価値観など
　異文化について理解できる
3.将来国際保健医療活動として看護実践ができる
　基礎的能力について説明できる
4.発展途上国における保健活動や医療支援の在
　り方について考えることができる
5.現地赤十字社の訪問を通し、国際赤十字の活動
　を理解できる

実習スケジュール

8月23日：日本発,バンコク着

8月24日：タイ赤十字社訪問

8月25日：タイ赤十字看護大学訪問(学生交流)

8月26日：タイ市内視察、バンコク発,ヤンゴン着

8月27日：ミャンマー赤十字社訪問

ヤンゴン看護大学訪問(学生交流)

8月28日：JICAミャンマー事務所訪問、救急法見学

8月29日：ヤンゴン市内視察、ヤンゴン発,バンコク着

8月30日：バンコク発,日本着

タイ赤十字社

タイ赤十字社付属の病院

血液センター

Snake farm(ヘビ毒研究施設)

タイ赤十字看護大学

実習室

モデルを使った授業の説明

オペ着着用の練習の様子(見学・学生交流)

タイ市内視察

タイの乗り物(サムロー？)

タイ市内

タイ料理

ホテル

タイでの学び

- タイは医療が発展してきており、病院で機械の導入が行われてきている。しかし機械を扱う知識を持った人材がまだ不足している。→人材の育成が必要
- タイは日本と比べて野生の毒ヘビが多く生息していたり、HIV感染者が多かったりするため、日本とは違いヘビ毒やHIVの研究が大規模に行われていた。

→国の特徴によって研究する内容は異なる。

国内の人々の健康を守るためにどのような研究や活動が必要となるのかを考える。

JICA

・JICAについての説明

→JICAの活動内容

- 洪水対策
- 感染症対策
- 保健システム強化（例）市街地の救急法講習

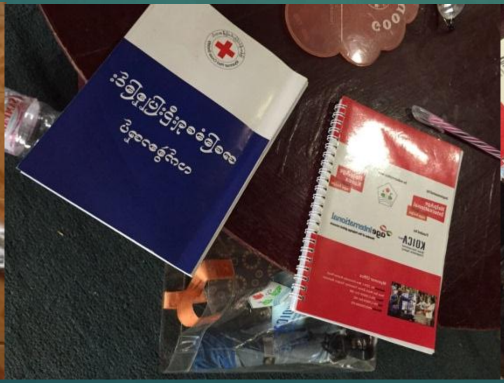
学んだこと

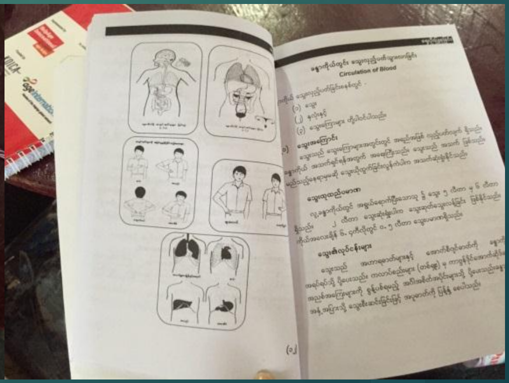
JICAの活動内容

- 洪水対策
- 感染症対策
- 保健システム強化

応急処置の練習

心肺蘇生の練習





使用していた三角巾,教科書

ヤンゴン看護大学

行った内容

・ヤンゴン看護大学の紹介
・現地学生との学生交流
→豊田市・学校について紹介
→質疑応答

質問内容

・Q就職先は決まっていますか？
→日本では決まっているが、
ヤンゴンの看護学生は決まっていない。
・Q大学に入るための試験はあるんですか？
→日本では、大学に入学する前に試験を受けるが
ヤンゴンでは高校の成績で行ける大学が決まる。

学生交流

学んだこと

- ミャンマーでは就職が難しい
- 奨学金がない
- 裕福な人しか学校に通えない
- 給料について興味津々

ミャンマー赤十字社の概要

- 赤十字はミャンマーの中で一番大きいボランティア団体（１０万人以上）
- ３８の区にも赤十字社
- 1920年から始まった（今年で創設96年）
- 目標：病気の人をどのように元気づけるか

親切な心を持ったボランティア精神を大切にする

ミャンマー赤十字社の仕事

- ボランティアの人々にFirst aidを教えること
- 災害で離ればなれになった人々があえるようにする
- 義足の提供（作る）

学んだこと

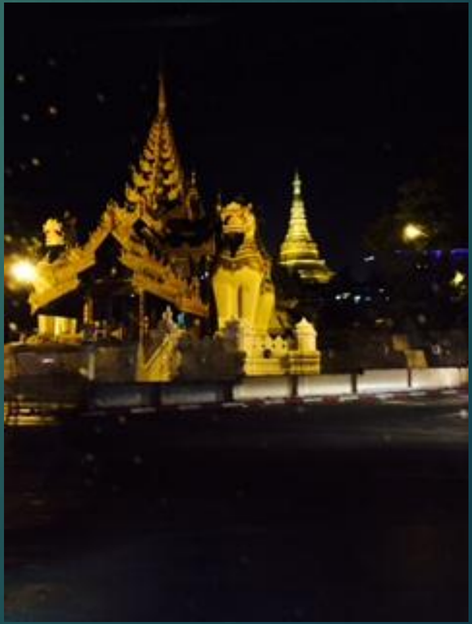
・助けるだけでなく、どのように元気づけるといった心理的支援も大切にしている。

・ミャンマーでは常に貧困があるため、日本とは異なり日常的に救援活動が行われている。赤十字の救援活動が日々の人々の生活を支えている。

・その後の生活も視野に入れた救援活動を行っている。

ミャンマー市内の視察

←パコダ→



まとめ

- この実習を通して、訪問国の特徴を捉え日本との違いを知ることができた。タイでは、日本との気候の違いや仏教を大切にしていること、王制であり赤十字の活動は同じでも組織の枠組みが違っていることが分かった。ミャンマーでは、都市と郊外では生活や医療に差があり、郊外の支援を行う必要があるが、郊外に住む人々の習慣もあり交通手段や連絡手段がないことから情報が得られないことが現状である。
- 発展はしてきているが、医療の知識を持っている人が不足しており人材育成の支援が重要だと考えた。
- ボランティア精神を大切にしていることは、どの国でも共通していたが、国の特徴に合わせた保健活動・医療支援が赤十字で行われていることを学ぶことができた。

おわり

ขอบคุณ ครับ/ค่ะ

ありがとうございました。